

# 2011～2012年度 少年少女ニコニコキャンプ報告

青少年活動委員会

委員長 新庄幸一(枚方RC)

2011～2012年度少年少女ニコニコキャンプは、準備期間の少ない中、ホストである吹田江坂ロータリークラブ、関西大学ローターアクトクラブの皆さんの情熱あふれる運営で、素晴らしい事業となりました。

このプログラムは、世代間の交流の中から、児童には自然への畏敬、団体生活の大切さ、友情の尊さを体感してもらうことを目的に、またローターアクトには青少年リーダーを体験することで、リーダーシップを身に付けていただくことを目的に開催されています。これに加え、今年はニコニコキャンプに、ローターアクターと児童の中間の世代である、インターアクトの皆さんにもサブリーダーとして参加していただき、上下の世代を超えた交流を通して、責任感を持った社会体験をしていただきました。この試みは、今後大きく広がって行くことを願っています。

また、岡部ガバナーより本年の青少年活動委員会の事業には、すべて東日本大震災の復興支援をテーマとするように指示を頂き、ホストクラブの吹田江坂ロータリークラブが、宮城県南三陸歌津小学校の避難所に避難されている皆さんが立ち上げたプロジェクトにより作成されたTシャツを購入され、2日目のプログラムに使用されました。このTシャツは、歌津プロジェクトに賛同した岐阜のTシャツメーカーが無償提供し、購入金額はすべて復興支援に当てられることから、ガバナー方針に合致すると、Tシャツ購入を決定されました。

開校式についての印象は、関西大学のキャンパスを使用されたことで小学生やその保護者にとって、近未来を見学できるいい機会になったのではないのでしょうか。

現地でのプログラムについての報告ですが、カレー作りについては具の大きさで、なかなか炊き上がらないことを子供たちが実感し、準備段階の大切さを感じながらの食事になったと思います。

2日目のオリエンテーリングでは、みんなで考えみんなで協力することの大切さを、学んでくれたと思います。



また陶芸絵付けは、あとからニコニコキャンプの楽しい思い出を呼び起こしてくれるものになると思います。加えて、凧に書いた被災地へのメッセージは、Tシャツの「絆」の文字に記された通り、こころの繋がりとなって被災された方へ届くものと信じております。

夕食時、ロータリアンの皆さんが焼いていただいたBBQを子供たちがおいしそうにほおぼる姿は、このプログラムの疲れを癒してくれるひと時だと感じました。

キャンプファイヤーも、準備時間の少ない中でもよく考えられたスタンツが多く本当に楽しい集いとなりました。何より参加している皆さんが、一つになって盛り上げられたことが、今にも降ってきそうな雨を、追い返したのだと感じました。

最終日の凧揚げでは、被災地へのメッセージをこめた凧が元気よく大空に揚がりました。

この3日間お世話いただいた、舞洲スポーツアイランドロッジ舞洲のスタッフの皆さん、いつも縁の下の力持ちで支えていただいたチームライラの皆さん、プログラム作成から、子供たちの世話までを力いっぱい頑張ってくれた関西大学ローターアクトクラブをはじめ、ローターアクターの皆さん、そしてこのニコニコキャンプを大成功に導いてくださった、庄瀬会長、八橋実行委員長をはじめ、吹田江坂ロータリークラブ会員の皆さん、多くの登録をいただいた、第2660地区内のロータリアンの皆様に、衷心より感謝して報告いたします。

本当にありがとうございました。

